

派遣留学生帰国報告書

* 帰国(復学)後の情報を入力してください

記入日	2018/10/11
所属学部・ 研究科・学府	融合理工学府
所属学科・専攻	創成工学専攻デザインコース

1. 留学先について

留学先大学名	グラスゴー芸術大学/ミラノ工科大学							
留学先所属学部等	Product Design year 3/ Design &Engineering MA1							
留学期間	出発日	2017/9/6	入学日	2017/9/13	修了日	2018/6/21	帰国日	2018/7/31
住居	<input type="radio"/> 大学(紹介)の寮・アパート	<input type="radio"/> 民間アパート	その他()					
	通学時間	グラスゴー芸術大学:10分(寮)/ミラノ工科大学:30分(民間)					On campus	
	通学方法	両方とも徒歩						
	居室スペース	<input type="radio"/> 個室	() 人部屋	その他()				
	共有スペース	<input type="checkbox"/> 完全個室	<input type="checkbox"/> キッチン	<input type="checkbox"/> トイレ	<input type="checkbox"/> バス	<input type="checkbox"/> リビング	その他()	
食事	自炊 <input type="radio"/> %	学食 %	外食 <input type="checkbox"/> %	その他 %	()			
保険	海外旅行保険(名称)	リスク細分型特定手続用海外旅行保険						
	派遣先大学指定の保険(名称)	なし						<input type="checkbox"/> 強制加入
	その他							
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)							
	成田 ⇄	ロンドン(飛行機)	⇄	グラスゴー(飛行機)				
	ミラノ ⇄	ヘルシンキ(飛行機)	⇄	成田(飛行機)				

2. 留学にかかった費用について

総費用	200万 円						
出どころ							
自費	貯金	円	アルバイト	円	その他	円	
援助	<input type="radio"/> 両親	120万 円	家族・親戚	円	その他	円	
奨学金	<input type="radio"/> JASSO	80万 円	その他名称()	円			
その他	千葉大学助成金	円	その他()	円			

2-1. 財政管理の方法

渡航時	現金	5万 円	その他(クレジットカード)	円
留学中	海外送金	<input type="radio"/> キャッシング	その他()	

2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	クレジットカード
住居にかかった費用	現金手渡し
その他	

2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			200,000	円
海外旅行保険			117,580	円
OSSMA			19,440	円
査証・在留許可証	€	200	26,000	円
住居	€	5,830	757,900	円
食費			330,000	円
通学に要する交通費			0	円
教科書、教材費			10,000	円
その他大学に支払った経費			0	円
光熱費			0	円
その他 (旅行・交際費)			540,000	円
その他 ()				円
その他 ()				円
その他 ()				円

3. 学業面

履修科目名	種類 ^{ex.正規、聴講}	単位数	単位互換認定申請の有無			
				有		無
1 PRODUCT DESIGN – BDES – CULTURE, CONTEXT AND C	正規	25ECTS	有			無
2 FoCI – Contexts of Critical Inquiry: Situation, Relation & Re	正規	5ECTS	有			無
3 PRODUCT DEVELOPMENT STUDIO 2	正規	12ECTS	○	有		無
4 DESIGN FUNDAMENTALS	正規	6ECTS	○	有		無
5 TECHNOLOGIES FOR THE FASION PRODUCT	正規	6ECTS	○	有		無
6				有		無
7				有		無
8				有		無
9				有		無
10				有		無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

グラスゴーでは留学生のコースは決められていたためFoCIのコース決める以外は全て決められていた。FoCIはポータルサイトにて登録を行った。ミラノでは渡航前に事前にシラバスを読んで希望を提出し、先着順で履修ができた。

3-2. 授業内容、方法に関して

グラスゴーでは充実したフィールドワークの場があり、リサーチ重視のデザイン手法をとっていた。一方ミラノでは製品の製造過程を考察し、実現可能性を常に問われる実践の場を意識した教育が行われていた。どちらの学校でもプロダクトデザインを専攻したが、方法が全く異なっていた。また座学に関して、グラスゴーでは講義を聞くのがメインであったが、ミラノではグループでのディスカッションの時間が多く持たれ、効率はあまり良くない印象を受けたが、生徒と密に関わる授業のスタイルをとっていた。

3-3. 語学力について

グラスゴーはネイティブであるが訛りが強く、とても早口なため、先生の話や、特にフィールドワークをする時が大変だった。その分リスニングはかなり鍛えられた。ミラノでは英語コースだったため、ほとんどの生徒が英語を流暢に話したが、お互い第2言語であるため聞き取りやすさはこちらの方が上であった。ただ授業のスタイルとしてディスカッションが多かったので話す力はこちらの方がよりつけることができたように思う。

3-4. 図書館など学内施設について

どちらも図書館はとても綺麗で充実していた。カフェテリアがあまり大きくなかったので昼食はお弁当か外で購入することが多かった。

3-5. その他

4. 生活面

4-1. 住居について

グラスゴーの学生寮は割高ではあるが光熱費などもまとめて請求され、部屋も綺麗で共同スペースもとても充実していた。キッチンが広いのがありがたかった。フラットメイトにも恵まれ楽しい寮生活であった。ミラノでは民家の間借りをしていた。部屋は広く、裕福な家庭であったので共同スペースもとても広かった。大家さんが心優しい人であったので非常によかった。

4-2. 食生活について

外食は高いので基本的には自炊だが、たまに友人とパブやレストランに出かけていた。食材はさほど高くないので自炊にかかる費用は日本で一人暮らししている頃とあまり変わらなかったように思う。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

どちらの国でも部屋に備え付けのWi-Fiがあり、グラスゴーでは日本で購入した海外周遊用のデータ専用SIMを、ミラノではイタリアのキャリアのSIMカードを購入していた。通信費は一月当たり22€であった。

4-4. 服装について

グラスゴーでは秋冬を過ごし、霧雨が頻繁に降っていたのでいつも濡れても構わないフード付きのウィンドブレーカーを持参していた。寒さは日本とさほど変わらない印象であった。日本から持ってきた防寒具でことが足りた。ミラノでは春夏を過ごした。気温は日本の夏よりも少し低いくらいで、湿度も低いのでずっと過ごしやすかった。夏場も日本から持っていく服装で事足りる。

4-5. 健康管理について

もともと体が丈夫なので一度熱を出した以外はほぼ健康で、少し体調を壊しても常備薬で治る程度だった。

4-6. 保険、OSSMAの利用について

医療保険は利用しなかった。ミラノで携帯電話や財布の盗難にあったので帰国後携行品の賠償請求をおこなった。

4-7. 課外活動について

学生寮で行われるスポーツやダンスのコミュニティで運動をした。また地域の体育館に行ってバレーボールクラブに参加したりした。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

グラスゴー大学の日本人ソサイエティーやノルディックソサイエティーのパーティーにお邪魔して友人を作った。

4-9. 日本から持参してよかったもの

調味料(醤油やみりんは簡単に手に入るのでもそれ以外。味噌やだし鰹出汁、中華だし、白だしなど)、シリコンスチーマー、化粧水、日本製の文房具予備

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

ふりかけを持って来すぎて使いきれなかった。

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

日本にいるときはイギリスが連合王国であると意識したことは少なかったが、グラスゴーではそれを多々感じるがあった。イギリスという一つの国として見るのではなく、イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドの4つの国が集まった連合王国なんだということを現地の人同士の会話や、習慣を見て強く感じた。そろぞれの方言や、性格の傾向の違い、お互いの国をあまりよくは言わないこと(特にサッカーの時など)、日々の生活の中で彼らは自分がどこ出身であるかを重視する。正直グラスゴーに来るまでは、連合王国であることは知っていたが、日本でいう地方の感覚くらいに思っていたし、当たり前イギリス人はイギリス人だと思っていた。しかし彼らは絶対に出身を各々言うし、特にスコットランドとイングランドでは未だになんとか確執が残っているように感じた。イングランドの人はスコットランドに対して冗談混じりではあったが皮肉めいたことを言うのがよくあった。同じようなことがイタリアでも言えた。イタリアは内戦が長く続いた国であるので、自分の出身都市が一番だ主張して来る傾向が強い。ミラネーゼやロマーノといったどこの都市出身の人かを指す言葉が多くある。南と北では生活ぶりも人の性格の傾向も街や建物の作りも全く異なっていた。裕福な北の人は南を少し馬鹿にする傾向があった。

旅行

ポルトガル観光2017年10月(4日間)、6万円
 ロンドン観光12月(3日間)、3万円
 フィンランド観光12月(10日間)12万円
 イタリア・トリノ観光2018年1月(4日間)3万円
 オランダ観光3日間(4万円)
 アイスランド観光3月(5日間)10万円
 南イタリア観光6月(8日間)13万円

その他 *気分転換やストレス発散法など。

グラスゴーでは寮で開かれるズンバやエクササイズに参加していました。またトランポリンのジムにいったりもしました。ミラノでは近隣の村のワイナリーに遊びにいったりしました。

5. その他

5-1. 留学先大学について

グラスゴー芸術大学は最も代表的な建築学科、私が所属していたプロダクトデザイン学科をはじめ、全部で17もの学科が存在している。総生徒数約1400人ではスコットランド唯一の公立の芸術大学でヨーロッパでも非常に評価が高い。図書館や学生寮、大きな工房が併設され、設備も非常に整っていた。ミラノ工科大学は工学、建築、デザインの3学部からなる国立大学で、私の所属していたDesign & Engineering のコースはミラノの街の北西部にあるBovisaという場所にキャンパスがあった。Bovisaのキャンパスもまた2つに分かれており、広いキャンパスであった。全体としてはイタリア語の授業が多いが、マスターには英語のみの授業を行うコースも多くあり、正規で留学する学生は多いような印象を受けた。

5-2. 留学希望者へのアドバイス

グラスゴーは英語がスコットランド訛りが強いのでいろいろな英語を聞いて勉強しとくと適用しやすいのではと思う。ミラノは本当に盗難が多いので十分に気をつけて。

5-3. 留学を終えて

2カ国間を通じて体系的にデザインを学ぶことができたので行ってよかったと思う。行かなければわからなかったミクロな視点や気づきも多かったので何人だからと人を判断しなくなった。傾向こそあるものの、どこの都市出身かでも全く異なる性格の傾向はあったし、そもそも個人を尊重することを大事にするようになった。またいろいろな背景を持つ人とデザインの話をする事ができて、気づかされることもたくさんあったし、逆に自分の文化や考えを面白いと言ってもらえることも良くあり、見聞を広める機会としてとても濃い1年だった。